

平成28年度研究評議会指摘事項への対応状況

○産学官民連携

(1) 公設林試や民間との共同研究をさらに進めてほしい。そのために、森林総研の研究課題等に関する情報がわかるようにしてほしい。

(対応状況)

今年度の研究課題一覧をブロック会議資料として都道府県に提示した。前年度の各課題の概要を収録した「年報」をホームページで公開している。また、共同研究については、今年度4月から9月の間に新たに11件の契約を締結した。

○研究課題の設定

(2) 国産広葉樹の活用が重要になってくる。広葉樹造林に関する研究を進めてほしい。

(対応状況)

地域特性に応じた針葉樹人工林の広葉樹林化、広葉樹の天然更新に関する研究を実施し、その研究成果を日本森林学会や日本生態学会などの年次大会にて公表している。また、それら成果を国有林および民有林の実務者向けの研修に活用している。早生広葉樹を含む早生樹の育成と利用法の研究開発に関しては外部資金の獲得に向け応募する準備を進めている。

○研究課題の設定

(3) 架線集材に関する研究を進めてほしい。

(対応状況)

すでに中距離型タワーヤーダについては、その生産性や最適な作業システム、中間サポートの活用技術などの研究成果を公表している。大径材については、現行課題の中でその取扱いにかかわる基礎データを明らかにしつつあり、今後、架線集材に関する新しい技術研究を提案する予定である。

○研究課題の設定

(4) 低密度植栽の低コスト造林への効果に関する研究を進め、その成果の情報発信をしてほしい。

(対応状況)

低密度植栽の試験地を現在各地で作っている。その中で先行している事例としては、北海道のカラマツ雑種 F1 の低密度植栽であり、その成果は、北方森林学会での報告、北海道の林木育種、森林科学(80号)にて公表するとともに、国有林、都道府県林務関係者、苗木生産者、森林組合職員向けの研修に活用している。スギやヒノキに関してはデータ集積中である。

○研究課題の設定

（５）未利用資源の活用としてリグニン、セルロースナノファイバーに関する研究に注目している。

（対応状況）

リグニンについては、所内および関係行政部局と相談しながら、プロジェクト終了後のパイロットプラント実証について、その体制の構築を図っているところである。また、セルロースナノファイバーについては、各種開発プロジェクトでのサンプル配布や利用技術開発と並行して、民間企業と連携しながら地域振興型製造業の可能性を検討しているところである。